

日本ギヤスケル協会

第30回例会

2018年6月2日(土) 岡山国際交流センター 3階 研修室
(JR岡山駅から徒歩3分)

<http://www.opief.or.jp/oicenter/>

14:00 開会の辞 日本ギヤスケル協会会長 木村 晶子 (早稲田大学教授)

14:05~15:35 研究発表 司会: 金子 幸男 (西南学院大学教授)

『ルース』における女性労働者の表象をめぐって

——「堕ちた女」と「善良な女」——

西村 美保 (名古屋学院大学教授)

「ギヤスケルとアン・サッカレー・リッチー」

矢次 綾 (松山大学教授)

15:45~16:45 講演 司会: 大野 龍浩 (熊本大学大学院教授)

「*North and South* —— *Shirley* の再構築」

白井 義昭 (横浜市立大学名誉教授)

16:50 閉会の辞 日本ギヤスケル協会副会長 松岡 光治 (名古屋大学教授)

懇親会

日時: 6月2日(土) 17:30~19:30

会場: ホテルグランヴィア岡山 (岡山駅直結) 2階 カフェレストラン オリビエ

参加費: 3,000円

※上記全プログラム、会員外の方の参加も歓迎いたします。

問合先: 〒501-6295 岐阜県羽島市江吉良町 3047-1 岐阜県立看護大学 木村正子研究室

日本ギヤスケル協会事務局: mkimura@gifu-cn.ac.jp

HP: <http://www.gaskell.jp/>

14:05～15:35 研究発表

『ルース』における女性労働者の表象をめぐって——「墮ちた女」と「善良な女」——

西村 美保（名古屋学院大学教授）

本発表では、ギヤスケルの『ルース』(Ruth, 1851)を取り上げ、ヒロインのルースが世話になるベンスン家の使用人、サリーに焦点を当てる。まずは女性労働者の性的搾取をめぐる文化的コンテクストや女性使用人の階級におけるサリーの地位と表象を吟味する。さらに他のヴィクトリア朝作家の作品に登場する女性使用人の表象と比較することで、本作品におけるサリーの役割と女性使用人としての特異性を明らかにする。

「ギヤスケルとアン・サッカレー・リッチー」

矢次 綾（松山大学教授）

アン・サッカレー・リッチーはウィリアム・サッカレーの娘で、ヴィクトリア朝後半の人気作家である。ギヤスケルから見ればリッチーは娘の友人であり、リッチーから見ればギヤスケルは父の友人で、尊敬する先輩作家の一人だった。リッチーは小説に加え、同時代の文化人について数々のエッセイを残しており、ギヤスケルに関するものもある。本発表では、そういった著作を吟味し、リッチーがギヤスケルのどのような点を評価していたかについて検討したい。

15:45～16:45 講演

North and South——*Shirley* の再構築

白井 義昭（横浜市立大学名誉教授）

Elizabeth Gaskell の *North and South* と Charlotte Brontë の *Shirley* には労働問題以外にも、対称的なプロット展開や類似した固有名詞の使用など作品全体にわたり多くの対応関係が認められます。しかし、これらの点について論じられることはあまりありませんでした。したがってこれらの対応関係を明らかにし、Gaskell がそれらに必要なに応じてどのような変更を加えて *Shirley* を再構築し、彼女が Lady Kay-Shuttleworth に伝えていたこの作品のプロット上の欠点を克服し、彼女自身が望む作品に作り替えていったのかを論じることとしたいと思います。

例会会場：岡山国際交流センター 3階研修室
〒700-0062 岡山市北区奉還町 2-2-1

HP: <http://www.opief.or.jp/oicenter/>
TEL: 086-259-2905

懇親会会場：ホテルグランヴィア岡山（岡山駅直結）2階 カフェレストラン オリビエ
〒700-8515 岡山市北区駅元町 1-5

TEL: 086-233-3138

HP: <https://granvia-oka.co.jp/restaurant/olivier/>

懇親会会場（ホテルグランヴィア岡山）

ホテルグランヴィア岡山（岡山駅直結）2階 カフェレストラン オリビエ
〒700-8515 岡山市北区駅元町 1-5 （TEL: 086-233-3138）

HP: <https://granvia-oka.co.jp/restaurant/olivier/>

